GSJ の国内連携

利光　誠一[1)]・遠山　知亜紀[1)]

1．GSJ の国内連携の概要

GSJ のアウトリーチ活動は，産総研中期計画期間第 3 期の始め頃まで地質調査情報センター（前身の成果普及部門地質調査情報部含む）が担い（牧野・土田，2022；佃，2022），そして第 3 期の 2010 年 10 月から 2015 年 3 月までは地質標本館が担った（利光，2022）．第 4 期の組織改編後は，新設された GSJ 研究戦略部の中の研究企画室国内連携グループ（2022 年度から GSJ 連携推進室国内連携グループ）が担うことになった．行政対応，企業連携，地域連携など，その他の国内連携業務は，事業内容によって第 1 期・第 2 期中は地質調査情報センター（同上）と産学官連携コーディネーター，第 3 期中は GSJ 研究企画室，第 4 期以降は GSJ 研究戦略部研究企画室（その後，GSJ 研究企画室），同部所属のイノベーションコーディネーター（2022 年度から GSJ 連携推進室所属）が担当している．産総研発足後の GSJ の具体的なアウトリーチ業務の主なものを第 1 表に示す．それぞれの所掌は組織再編のタイミングで変更されており，また所掌を明確に分けづらい部分もあるので，第 1 表では所掌を区別せずに産総研中期計画の期間ごとに分けて掲載している．

2．国内連携の事例

産総研発足後，産総研地質調査総合センターとしてのプレゼンスを示すために，最新地質図発表会や地質調査総合センター記念講演会が開催されたが，その後，産総研の研究を社会により広く知っていただくために GSJ シンポジウムが 2005 年 6 月から始まった．産総研中期計画期間の第 4 期になって，それまで研究ユニット単独で開催していた研究部門の研究発表会なども GSJ シンポジウムとして開催することとなった．この GSJ シンポジウムについては，次のサイトで一覧できる：https://www.gsj.jp/researches/gsj-symposium/index.html　（2022 年 6 月 6 日閲覧）．

また，1997 年度から地質の一般への普及と GSJ の研究業務の普及広報を目的とした地質情報展を日本地質学会と共催して地質学会の学術大会開催都市で同時期に開催してきた（写真 1）．これまでの開催地などは次のサイトから一覧できる：https://www.gsj.jp/event/johoten/index.html（2022 年 6 月 6 日閲覧）．2022 年度は早稲田大学で 25 回目の地質情報展が開催される予定である．

さらに，国際惑星地球年（IYPE）の中で開始したプログラムのうち，2008 年 5 月 10 日に始まった「地質の日」に関連して，経済産業省本館ロビーで関連展示を開催してきた（写真 2）．その展示テーマの一覧を第 2 表に示す．展示期間中には経済産業省内でセミナーを開催し，産業技術環境局長や基準認証政策課長ほか，経済産業省の職員に直接説明をする場を設けており，この「地質の日」経済産業省特別展示は，経済産業省主管で「地質の調査」を行っていることの周知に良い広報の場となっている．

同じく国際惑星地球年の中で開始したプログラムのうち，国際地学オリンピック参加プログラムについて，地学オリンピック日本委員会による代表選考会が 2008 年から始まった．2010 年 3 月からは代表選考会の本選会場がつくば市となり，最初の年は産総研の共用講堂が試験会場となった．翌年から筑波大学あるいは筑波研修センターを試験会場として本選が実施されている．2010 年 3 月の実技試験として実施された岩石・鉱物の鑑定試験問題で用いられた標本が，地質標本館に展示されている．このつくば市で開催される代表選考の本選は，「グランプリ地球にわくわく」と銘打ったイベントになっており，全国から選抜された 60 名ほどの高校生・中学生に対してつくば市内の研究所の見学（地質標本館など）と第一線の研究者による講演会（とっぷ・レクチャー）が準備されている．第 3 表にこれまで開催された「とっぷ・レクチャー」の GSJ 派遣講師一覧を表示する．

第 4 期になって，募集特定寄附金制度 GeoBank（ジオバンク）が創設され，2017 年 1 月 23 日から募集を開始した．そして，その寄附金を運用する一つとして 2017 年度に産総研地質人材育成コンソーシアムが創設され，それまであった複数の人材育成プログラムを含めてジオ・スクールとして整理した．この時に，地質調査研修，地形判読研修，鉱物肉眼鑑定研修など，地質・地下資源関連企業から要望の強かったプログラムを立ち上げることとなった．

1）産総研 地質調査総合センター連携推進室

キーワード：地質の調査，国内連携，アウトリーチ，イベント対応，事務局

第 1 表　GSJ の国内連携の概要
産総研中期計画期間ごとに実施状況を整理．第 5 期は期間途中のため，第 4 期とまとめて表示．
産総研年報，地質ニュース，GSJ ニュースレター，GSJ 地質ニュースを参考にして作成．

1期	2期	3期	4期・5期	業務の項目等
				所外向け行事事務局：
○	○	○	○	地質情報展
○				地質調査総合センター記念講演会
○	○			最新地質図発表会
	○	○	○	GSJシンポジウム
			○	ジオバンク（募集特定寄附金）
			○	産総研地質人材育成コンソーシアム
			○	ジオ・スクール（カッコ内は担当ユニットが事務局運営）
	△	△	○	地質調査研修　※2016年度までは外部主催研修への講師派遣対応
			○	地形判読研修
			○	鉱物肉眼鑑定研修
	○	○	○	（地震・津波・火山に関する自治体職員用研修プログラム）
			○	GSJジオ・サロン
	○	○	○	地学オリンピック代表支援
○	○	○	○	（博物館実習）
	○			国際惑星地球年（IYPE）
	○	○		日本ジオパーク委員会
	○	○	○	地質の日事業推進委員会
			○	女子大学院生・ポスドクと産総研女性研究者との懇談会
	○			研究職つくば見学会
○	○	○	○	地質相談：
				所外イベント対応：
○	○	○	○	日本地球惑星科学連合大会　ブース出展
	○	○	○	埼玉県教員研修
	○	○		つくばフェスティバル　出展
○	○	○	○	つくば科学フェスティバル　出展
		○	○	秋葉原サイエンスフェスタ　出展
○	○	○	○	青少年のための科学の祭典（日立会場）　出展
○	○	○	○	SATテクノロジー・ショーケースGSJ窓口
	○	○		埼玉県地震対策セミナー　ブース出展
○	○			震災対策技術展（神戸、横浜）　出展
○	○	○	○	各種学協会等イベント出展
○		○		その他共催イベント等協力
				企業連携・産業創出関係：
○	○	○	○	全地連技術フォーラム　出展
○	○	○	○	全地連／地質調査総合センター懇談会
	○	○	○	産業技術連携推進会議・地質関係分科会（地圏環境分科会、地質地盤情報分科会）
	○	○	○	産総研コンソーシアム「地質地盤情報協議会」
	○			研究機関等意見交換会・懇談会
	○			大学−地質調査総合センター連絡会
			○	アグリビジネス創出フェア　出展
			○	産業技術支援フェアin関西　出展
				地域連携：
		○		ジオネットワークつくば（事務局）
			○	筑波山地域ジオパーク推進協議会
	○			自治体−産総研地質地盤情報連絡会
				外部機関教育プログラム対応：
○	○	○		サイエンスキャンプ（日本科学技術振興財団）
○	○	○	○	後援・共催・協力名義使用対応：
○	○	○	○	学協会等連携（委員・役員推薦対応など）：
				経済産業省対応（イベント）：
	○	○	○	地質の日関連経済産業省本館ロビー展示
		○	○	経済産業省こどもデー　ブース出展
				経済産業省対応（連携）：
○	○	○	○	省内担当部署・関連部署との連絡会・懇談会
				GSJ内対応：
	○	○	○	「地質の日」横断幕設置（産総研つくばセンター中央前陸橋）
○	○	○	○	産総研一般公開GSJ窓口（つくばセンター、地域センター）
	○	○		産総研オープンラボのGSJ窓口
		○	○	産総研テクノブリッジフェアGSJ窓口（つくばセンター、地域センター、その他の都市）
○	○	○	○	広報誌編集委員会への協力（地質ニュース、GSJニュースレター、GSJ地質ニュース）
				所内連携：
○	○	○	○	GSJ退職者を送る会
○	○	○	○	地質標本館運営・展示・改修協力

写真 1　「地質情報展 2022 あいち」の様子
コロナ禍のため，2 年越しの開催となり，感染症対策を講じて開催した．

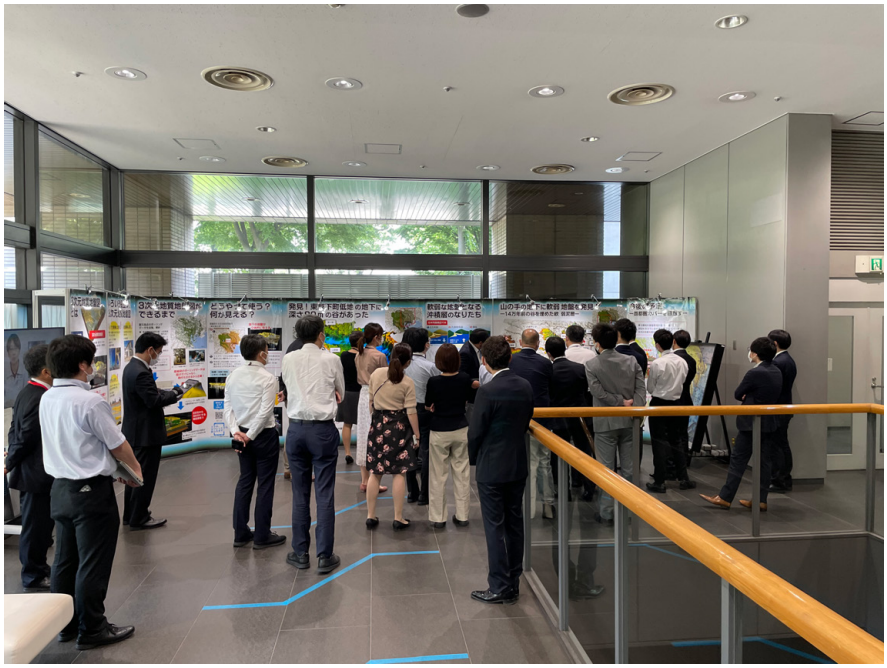

写真 2　地質の日関連経済産業省本館ロビー展示の様子（2022 年）
展示期間内に経済産業省内でのセミナーを開催し，産総研研究者が説明しているところ．

しかし残念ながら，2020 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い，ジオ・スクールのいくつかのプログラムは停止状態となっている．この感染症拡大状況の収束が待たれるところである．

3．おわりに

以上，GSJ の国内連携活動について簡単に述べた．GSJ は，産総研つくばセンターにある地質標本館で「地質の調査」についての展示・普及広報を行うとともに，所外におい

第 2 表　地質の日関連経済産業省本館ロビー展示の履歴

年度	展示テーマ
2008	シームレス地質図
2009	鉱物資源
2010	ジオパーク
2011	中止（東北地方太平洋沖地震対応のため）
2012	地質情報と知的基盤
2013	知的基盤整備
2014	地質の目で見る地震災害の連鎖
2015	地質の利活用と地質図Navi
2016	中止（熊本地震対応のため）
2017	地球の熱を上手に使う--地熱発電と地中熱利用--
2018	近代日本の鉱工業発展を支えた地質図たち
2019	日本初！日本列島大分析　元素で見る「地球化学図」
2020	見て、知って、なるほど！地質の日＠ホーム（オンライン開催）
2021	大地の骨格を伝える地質図
2022	見えない地下を探る！--3次元で解き明かす都心の地下地質--

第 3 表　日本地学オリンピック本選「グランプリ地球にわくわく」における「とっぷ・レクチャー」の派遣講師一覧

年	派遣講師名	タイトル	会場	開催時期
2010年	齋藤文紀	アジアの大河川とメガデルタ	産総研共用講堂	3月
2011年	中止（東北地方太平洋沖地震による震災のため）			
2012年	宍倉正展	過去の巨大地震・津波を探る	産総研共用講堂	3月
2013年	高田　亮	火山から広がる　地球の世界	産総研共用講堂	3月
2014年	森田澄人	未来のエネルギー資源、海底下のメタンハイドレートを探る	産総研共用講堂	3月
2015年	高橋雅紀	日本列島の成り立ち	産総研共用講堂	3月
2016年	藤原　治	津波堆積物の科学	筑波銀行本部ビル10階大会議室	3月
2017年	実松健造	世界のレアメタル鉱床	筑波銀行本部ビル10階大会議室	3月
2018年	高橋雅紀	厚紙模型でひも解く日本列島地殻変動の謎	筑波学院大学　2201教室	3月
2019年	山﨑誠子	放射性元素から知る岩石の年代	筑波銀行本部ビル10階大会議室	3月
2020年	宇都宮 正志	山に分け入り、地球史を読み解く--房総半島の地質から--	オンライン	7月
2021年	羽田裕貴	チバニアンの地層から読み解く地球の歴史	オンライン	3月
2022年	内出崇彦	微小地震とAIで読み解く日本列島の応力場	オンライン	3月

てもさまざまなアウトリーチを行っている．あわせて，地質標本館を利用した自治体や企業などへの視察対応なども多くなってきている．一般の方々に対しても，そして行政や産業界に対しても，足下にある地質についてより広く正確に知っていただき地質情報を有効に利用していただくために，国内連携活動をさらに進めていくことが重要であると考えている．

第 1 表に掲げる国内連携活動は，ひとえに GSJ の全職員および関係者（OB を含む）によって支えられてきたものです．そして，連携相手のさまざまな組織・機関・その関係者にも支えられてきたものです．この場を借りて皆様にお礼を申し上げる次第です．

文　献

牧野雅彦・土田　聡（2022）地質調査情報センター．GSJ 地質ニュース，**11**，192-193.

利光誠一（2022）地質標本館．GSJ 地質ニュース，**11**，194-199.

佃　栄吉（2022）産総研の設立と地質調査総合センターのあゆみ．GSJ 地質ニュース，**11**，160-169.

TOSHIMITSU Seiichi and TOYAMA Chiaki（2022）Outreach of geology and collaboration with domestic organizations.

（受付：2022 年 6 月 13 日）